

熊谷税務署長賞

「これからの税金」

深谷市立幡羅中学校 三年 平沼 ありさ

我が家には年金をもらっている祖父がいます。その年金は働いている若い人達の税金で賄われています。この様にして日本は若い世代が高齢者を支える世の中になっています。

ですが今そのシステムが危うくなっています。少子高齢化が進んでいる為です。ニュースなどではよく耳にしますが取り立てて気にした事はありませんでした。今回この作文を書くにあたり税について色々調べた結果これは日本の将来にとってとても重要な問題である事がわかりました。

今の日本は世界でも上位にくる程の長寿国です。それはとても良い事ではありますが、デメリットとして高齢者が増える事で、医療や年金、介護などに必要なお金が増えていく事になります。逆にそれを支える若い人達は減少し、更に就職難などでフリーターやニートなどと呼ばれる人も増えその結果納められ税金も減ってきているのが現状です。

人は皆いつかは働くこともできなくなり、やがて税金のお世話になるときが来るのです。そうでなくても教育や医療費など普段からも税金のお世話になっています。当たり前のように通っている道も税金が支えてくれています。これからも人々が安心して暮らせる日本を維持していく為には何が必要なのでしょうか。

今のままの税の仕組みではあと三十年程すると高齢者の生活を支えるのは難しくなってくるそうです。日本の人口は今年をピークに減少し二十一世紀半ばには三人に一人が六十五歳以上の高齢者になると予想されています。その時になって困らないよう早い時期からの財政構造の見直しが必要だと思います。消費税率アップなどもそのうちの一つでしょう。

消費税率アップに関しては賛否両論色々な意見が出ているようですが、こんな社会を支えていくには仕方のない事なのかもしれません。

いつか弟がこんな事を言っていました。買い物をしたレシートを見て

「この消費税ってどうなるの？」

「国が一度集めて、みんなの為に使うんだよ。」と答えると、すかさず

「じゃあ、俺達もみんなの役に立ってるじゃん。」その通りだと思いました。税金のお世話になるだけでなく、私達も税金を払っていたのです。ちょっと大人になった気がしました。若い世代の人々が一人でも多くこんな気持ちを持って納税に向き合ってくれば世の中は変わるのではないのでしょうか。人は皆必ず税金のお世話になっています。少子高齢化自体はどうする事もできませんが、私達一人一人が税に対する知識をもっと高め、社会の変化に合わせて税の仕組みも考えていくことが必要となるのです。